非暴力直接行動 No. 8

"Neperforta Rekta Agado" Japana Sekcio de IMR.

見えない大連合の空間を透して！

WRI国際大会へのメッセージ

このへ三年毎のWRI国際会議〉のため開催地オランダへ集った世界各地の仲間に日本からあいさつを送ります。

私たちは日本において「戦争抵抗者」を名乗っています。私たちは、あなたと同じその名を自分の名とすることによって、あなたとつながり、かつそれをへカ〉としながらこの三年間、日本の平和運動の一部分に参加してきたのです。このあなた方との連帯は私たちの大きなはげましでした。

とはいえ私たちWRI日本を自ら名乗りつゝ活動するメンバーは、現在なお十数人という小数です。また地域的にも国内各地に分散しています。そのかぎりでは私たちの活動はしごく小さく、ごく一部分のものでしかありません。

しかしまた、私たちのメンバーの半数以上は、さまざまな運動体に参加して、そのグループの地道な推進者であったり、あるいは有力なメンバーであったりということがあります。それゆえメンバーの活動は他の多くのグループの運動を支持発展させると同時に、そのグループ内におのずから、WRIの精神をかんずくへ非暴力直接行動〉の共鳴者を生み出しつつ、ひろくWRIの同伴者、共仏者をつくっています。

このようなWRIへの共仏者の関心に応じるため、WRI日本はひとつの活動として昨年八月から、機関紙へ非暴力直接行動〉を刊行してきました。また昨年、WRI日本創立当時の代表者で、アナキスト・エスペランチストとも知られた故山鹿泰治の評伝が刊行されましたが、そのなかの平和運動ーとくにWRIに関する一章や、一九六〇年インドで開かれた第10回国際大会

の章などは、ひろく世人にWRIを周知させる役割を果したということがあります。これに加えて対外国通信連絡責任者となった原子東港さんの個人的な大きな献身によって、いままで言語的な障害から、国外交流がほとんど絶えていた問題を、徐々に解決することになりました。

これらのことはWRI日本が一九五四年につくられて以来、活動がようやく大衆化し一般化してきた端緒として、私たちにとっても特記すべきことです。

私たちは平和運動についてこう考えます。

いま日本国内では、思想・信条・立場のちがういろんなんたちが平和のために立上り、あるいはその関連の住民運動、市民運動がひろがっています。そして私たちは、当面する多岐多面に亘る問題に対して、単一の大きな運動組織では到底対応できないーという意味で、その多様で独自性をもつ運動体の発出はのぞましいことだと考えます。

しかし問題は、残念にもその多くの運動体は、問題別地域別のいグループの枠にとどまって、セクト主義、自己至上主義その他の要因と権力の分断工作のため、相互の交流さえも充分行われていないということです。

私たちの運動、そして組織は、その内部においてだけでなく、他のグループとの関係においても、それそのものとして在るべき真の平和を具現しようとするものでなければなりません。

その理想的な現実のすがたは、それぞれの運動の多様な個別性、独自性が尊重されると共に、運動相互間の積極的な助け合い「支援行動」がつねに意識されて、「眼にみえない大連合」としての力がつくられることでしょう。

とすれば、私たちWRI日本が、その活動の一つとしてめざすところのものは、いろんな方法によって多くの運動グループと接触し、各グループの交流、相互支援、共仂の方向と契機をつくりだすことにあります。この意味では、私たちWRI日本の運動は、私たちの組織メンバーが増大するということだけでなく、国内の多くの運動グループの存在、その発展と相互の共仂関係に不可欠の役割をもつことでしょう。

そして同様に、このような日本の私たちの存在が、また世界の戦争抵抗者グループの諸活動の一部分として、あなた方と連合しているーと考えるとき、私たちはおのずから身うちに伝ってくる大きな感動をとめることはできません。

私たちがはじめにあなた方を「仲間」と呼びかけたのは、実にこのようにあなた方との「連合」を

力とし、活動していることの確信とよろこびをこめてのことだったのです

今回の国際会議に対して、私たちWRI日本は、組織の未熟と能力の不足から、まとまった形での独自の報告や問題提起を送ることができなかったことを申し訳なく思います。

当面私たちは次のようなことを重点に活動をすすめていきます。

1、太平洋ミクロネシア・ポリネシアにおける水爆実験被害者へ（とくにマーシャル群島ロンゲラップ島村長ネルソン・アンジャインさんの訴えに応えて）救援の問題とそのキャンペーン。

2、非暴力直接行動の実践を通じてWRI理念の拡大。

とくに1については関係地域WRI部会との情報交流と共同行動の実現をよびかけます。あわせて私達と各国部会の機関紙その他の交換などの積極化を期待しています。

なお今回の国際会議に、私たちは代表を送れませんでしたが、幸いにも、石谷行さんがオブザーバーとして出席します。彼は私たちWRI日本の親しい友人であり、しばしば諸行事の行動を共にしてきました。彼はまた日本における非暴力行動のすぐれたリーダーでもあります。彼を通じて日本の諸事情を聞いて下さると幸いです。

最後に、この会議の結果が、私たち日本の平和運動を力づけ、さらに活動へとふるい立たせるものとなることを期待しています。

いま私はこのメッセージを書き終るにあたって、遠く日本から、入見えない大連合への中間を通して、はるかオランダの会議場を、そしてその椅子にすわったあなた方の一人一人をみつめています。敬意と親愛のおもいをこめた、仲間としてのあいさつを、かさねて送ります。

一九七五年七月

戦争抵抗者インターナショナル日本部

（文責）　書記　何井　秀

WRI東京　上村浩　戸駒恒世

WRI市川　古沢宜慶

WRI川崎　安斉しげき

WRI大阪（西町）水田ふう

WRI京都　会沢康一

WRI姫路　原子東梧

WRI広島　鈴木佳則

☮ 〈非暴力〉市川市出31-3 古沢方 非暴力行動準備会機関紙ーが90号をむかえ号外を出した。会の紹介。集会案内。完成途上のアシュラム（10・3畳の合宿、集会・宿泊所）のしらせなど。

☮ ZAKO通信　姫路（市自警町）原子（東梧）さんが出してる、今号No.90は英文版フリイ号のトビア少年のことなど写真入り。実費送共50円。

ラルザックの闘い
―フランスの"三里塚"―

ここ数年ヨーロッパでは、軍事基地と施設拡張に対する反対が各地で続いている。その最重要な闘いはフランスのラルザックのものである。

そこでの百三名の農民小集団はフランスのみでなくヨーロッパ全域からの支持支援によって非暴力の戦術と戦略を行使して闘っている。その闘いは全ヨーロパッパの他の闘争を持続させ盛りあげてきたことでは日本の三里塚と同じである。そしてその勝敗は、反軍闘争をすすめている全ヨーロッパの人々にとっての象徴的な重要性をもっている。

三月十日午前三時、何者かに仕掛けられた爆弾が、抵抗農民百三名の一人A・ギロードの玄関で炸裂した。忽ち全土から救援金や家庭用品が送り込まれ、ラルザック農民への脅迫暴力は止めよ、のデモは、パリをはじめ各地でおこった。とくにミローでは、小さな村の二千五百人が参加し、トラクターで県庁の門を突入して広場を占拠、機動隊のガス打込みに対して三時間以上も坐り込んだ。

農地の共同保有を提案する集団GFAは15ヶ月前に出来、軍に売るよりは、という農民からすでに三二〇ヘクタールを集め、千人を越す会員の資金でそれを保有した。

またラルザックを支持するための三%納税拒否運動は、もうひとつの支援と連帯を示す方法である。

ルモンド5月14日号によれば、現在五一三名の人々が各地で税金三%を拒否して、農民へと送っている。三%納税拒否理由は、人毎にさまざまである。政府の政策への反対、第三世界への経済的政治的侵略―新植民地主義反対、フランスの軍国化、軍事化への抗議などである

一方、軍当局は今年末までに拡張のめどをつける意図で、ラルザック占拠の法的手続を進めるかたわら巨大な金額での土地買収を強制に申出ている。それは当初の価格の十倍にも及び、百三名のうちついに一人は、すこし前にその買収に応じた。

政府の土地収容法発動は、その関係の十一村落の内、九ヶ村では徴用に関する事務を拒否された。ミローでは数百人が事務所メロを妨ぎ、警官隊が裏口から突入すると、村役場職員は席を離れて仕事を拒否、土地収容に関連した書類は屋外に運び出され焼き棄てられた。それと同じようにクレッセルでも、書類は放棄された。

この一月はじめ一団の農民が、拡張区域内の三軒の農家へ水道をひきはじめた。四日道を横切る溝を掘っていると、三個小隊の機動

○・送料・製作者等の委託として50円以上カンパを！

戦争抵抗者インターナショナル日本部機関紙
非暴力直接行動　第八号（国際会議特別号）

○ あなたとぼくの合言葉、〈切手〉に〈のり〉を！

一九七五年 七月十日発行
編集・姫路市亀山三五四 WRI日本(事務)

隊がおそいかかり、農民たちを銃の木部や棒でなぐった。髪をつかんで数人は塀の外へ引きずり出された。25日、再び農民たちは集会を持ろうとした。二五〇人の機動隊が再度乱暴のかぎりをつくした。農民は国道にバリケードをつくって応酬、交通を遮断した。

そして三月十日A、ギローの戸口で爆弾が破裂した。この行為は農民をおそれさすどころか、全ヨーロッパの憤激を買った。WRI実行委はラルザック農民への国際支援を始める計劃をたて、本部員を派遣している。

（WRIニュースレター148号6月）

"Libero Int'l" is a libertarian bi-monthly published by the Section for International Correspondence of CIRA-Nippon - sole editorial responsibility for content belongs to Libero International Editorial collective.
Please address all correspondence, business or editorial to:
Libero International
c.p.o. Box 1065, Kobe, Japan 650-91

雑記

7.3

☆ フリー号は、5月26日ドックへ入り、大修繕が順調に進んでいる。もっとも乗組員は連日仕きづめでへとへと、みんなつかれてるとはバーナードからの手紙。

☆ 7月16日頃、船は大阪へより二～三日滞在して、広島へむかう。原水禁大会に出たあと、上海へ8月上旬離日して向う予定。

☆ Hさんからの手紙。その他

☆ フランス・ラルザック農民の抵抗の記事をよみながら、私の住む県の青野ヶ原ホーク・ミサイル基地反対運動のことを思いました。直接参加できなくとも、その動きや経過など紹介をすべきで、またやりたいと思います。

☮ ドキュメント版で紹介された "FRI in Japan" のTVで私が一番感銘をうけたのはTobia少年についてお母さんが述べてることは子供の生活と教育についての考え方でした。また何人かの女性が全く男たちと同じように、おんぼろのFRI号にのりくんで立派に仕事をしながら大平洋をのり切ってきたことなど、もっと婦人の視点からとりあげてよいのではないでしょうか。

☆ WRI国際大会に、FRI号からはナオミさんと、M.ゴーチエさんが参加のためオランダへ向った。尚、一面メッセージのように石谷行さんも参加。

☆ 地球は国家によって分割され、権力は兵器をもって武装しせめぎあっている。自然、生物、人間の生存環境としての地球という理念で、現代の政治、社会、経済を見直すと何と不自然なことか。猫が人間におりてきていわゆる人間に害を加えるとした現象は、人間が自然の生存條件を破壊した結果の回答だ。猫たちは、日本の愚劣な政治経済が、自ら産み出したものだ。

We cannot but feel moved as we think that our existence in Japan is united with you aboard as a part of the world WRI. We called you as 'Comrades' in the beginning of this message. The word came out of our confidence and joy sensed by the fact that you and we are working together with the power of the "Great Federation".

We feel sorry that we WRI JAPAN cannot send you well-prepared unique reports nor propose any particular things due to the immaturity and lack of power as an organization.

At present we are doing mainly such activities as mentioned below.

1. relief activities and informing campaign for the victims of the nuclear explosions in Micronesia and Polinesia in the Pacific: this is done mainly as a response to an appeal of Nelson Anjain, head of Longerup Village in Marshall Islands.

2. to speead the idea of WRI to other groups by means of showing the examples of Nonviolence in direct actions.

Concerning 1, we are putting much energy to appeal for exchanging information and for doing any joint actions among WRI branches in different areas. (We hope to exchange gazettes with WRIs in different countries.)

We could not send a representative to this conference, but fortunately we could find Susumu Ishitani to send as an observer on behalf of us. He is our close friend, a friend of WRI JAPAN. He worked with us often. He is an excellent leader of Nonviolent Actions in Japan. We hope you would become acquainted with our situations through him.

On closing this message, we want to say that we are expecting with hope that this conference will give us all ecouragement to stand up to work for peace further more. We should like you to know that we are looking at you, each of you sitting in the chairs at the international conference of WRI in Holland far away from us geographically but close by bridging over the space of the "great invisible federation" in spirit.

We send you all our respect, love, and comradeship. peace,

July, 1975 Kou Mukai (clerk) WRI JAPAN, 354, Kameyama, Himeji-shi

K. Mukai

S. Kamimura, T. Tokoma (WRI TOKYO) N. Furusawa (WRI ICHIKAWA) S. Anzai (WRI KAWASAKI) F. Mizuta (WRI OSAKA) K. Aizawa (WRI KYOTO) T. Harako (WRI HIMEJI) Y. Suzuki (WRI HIROSHIMA)

last August. Last year, Ko MuKai completed a book writing a biography of late Taigi Yamaga, who was the first representative of WRI JAPAN and known as an anarchist-esperantist in Japan. A chapter of the book about peace movements including the description of WRI and another chapter describing 10th WRI Conference held in India in 1960 have been playing a role of propagating WRI to the public eyes in our country. In addition to this, at present by having had Togo Harako as a contact person to correspond with WRI abroad, we have become to be able to solve gradually the problem that we have been often cut off the international communications due to the language barriers. (Mr. Togo Harako, 51, Hakuro-Cho, Himeji-shi, Japan.) We have mentioned to report how we WRI JAPAN have gradually become to grow as something of the people in Japan.

I would like to let you know how we feel about the peace movement now. In Japan people with different ideas, creeds, and stands are becoming to do something for peace and in connection with these peace movements various kinds of inhabitants' or citizens' movements are growing in number. As we are facing so many different problems one big organization can not cope with them all well. So it is desirable to see the birth of many different kinds of movements to develop and maintain the uniqueness of each movements in the contex of the whole.

However, one of the deplorable aspects we see in Japan is that many active groups often cannot go beyond the boundaries they make by themselves according to their own issues or their geographical areas failing to have necessary communication to deepen their understanding one another. Their sectarianism and imperativism are the sources of such devisions as well as such factors as the ruling powers' strategic manupulation to bring conflicts in or devide the opposing people.

Our movement and organization have to realize peace in its true sense, not only in our own group but also in the relations with other groups. The concrete feature of this will be attained by forming a "invisible great federation" in which much consideration about the supportive actions of one another among the different movements as well as the respect for the individuality and originality is always given to one another.

With this in mind, one of the most important activities of WRI JAPAN is to have contacts with different groups and movements to create the chance for communications, mutual supports and collaborations among different groups. In this sense the role of WRI is never limited to increasing its own members. We must play an essential part to bring the birth of many different groups, to cause the development of many different movements and to make it possible to help one another.

NonViolent Direct Action

No. 8

Jul. 1975.

The Organ of WRI-JAPAN. Kou MUKAI 354 Kameyama HIMEJI-Jap.

Message from WRI JAPAN to the WRI-
15th Triennial Conference

BRIDGING OVER THE SPACE OF THE "INVISIBLE GREAT FEDERATION"

It is a great pleasure of us, WRI JAPAN to have this opportunity to send you our heartfelt greetings to you, our Comrades' who have come from all over the world to attend the WRI-15th Triennial Conference. We are the group of people who have been taking a part of the peace movements in japan with the name of WRI for these past three years. We have been encouraged by the thought that you have been working for the same cause with the same name in different parts on the globe The sense of the solidarity has been giving us much encouragement and we are grateful for that.

Our group working with the name of WRI JAPAN, however, is very small, less than a score in number at present. Adding to it, we are geographically scattered to live. These conditions causes us to be unable to play a big role.

But more than half of our members participate in various kinds of movements, some of them serving as the promoters of the groups and others taking much responsibility in their movements. Their presence and actions have served to help having the movements they are engaged in based on a solid foundation and to help create the support from their friends in these movements for the spriit of WRI and especially for the nonviolent direct actions. These members of our group are causing the increase of the sympasizers and collaborators for WRI.

In order to suppliment the trend like this, we WRI JAPAN have been publishing a gazette called "Nonviolent Direct Action upto No.8 by now since